

わたしのお兄ちゃん

滋賀県 高島市立今津北小学校 四年 石田 千穂李

わたしの、中学三年生になるお兄ちゃんは生まれつきしょうがいを持っていてようご学校に通っています。まだひらがなも書けないし、おしゃべりも上手に出来ないけどわたしにはとても大切な、ステキなお兄ちゃんなのです。

わたしはいつもお兄ちゃんのことを、ゆうちゃんとよんでいます。ゆうちゃんはごはんが大好きで、いつもおかわりをします。お母さんが、

「食べすぎちゃダメ。」

と、言ってもニコニコ笑顔で空のお茶わんをさしだすと、ついお母さんもその笑顔に負けて、

「少しだけやで。」

とごはんをよそってしまいます。

うたやダンスも大好きで、いつもテレビを見ながら大きい声を出して、おどっています。ときどき、

「うるさい。」

と、おこられますが、そんなことはおかまいなしで、ニコニコおどりつづけるので、最後には、いっしょにおどりだしてしまいます。

わたしがピアノの練習をしている時もピアノのそばにやつてきては、わたしのひくピアノに合わせておどってくれます。ときどき、ジャマだな、と思う時もありますが、練習

がイヤになっても元気が出て、またやる気が出てきます。

ある時には、おふるあがりにはわざとシャツやズボンをかかさに着てニヤニヤしたりしてわらわせてくれます。

わたしが泣いていると、何もいわないけど、かたをやさしくとんとんとたいてくれます。

この世の人がゆうちゃんみたいな人ばかりなら、ぜったいに争いなんかおこらないだろうなあとも思います。

お母さんはそんなゆうちゃんの頭をしょっちゅうなでては幸せそうな顔をしています。お母さんがゆうちゃんばかりかまうので、ちよびりさみしくなる時もありますが、それでもお母さんとゆうちゃんのエ顔を見ていると、わたしもうれしくなってきました。

ゆうちゃん、いつもやさしくしてくれて、ありがとう。

ゆうちゃん、いつもえ顔をいっぱいありがとう。

ゆうちゃん、これからもずっと仲よしでいようね。大好きだよ。